

「持続可能な社会づくりの担い手を育む太田の教育」

学校名 厚岸町立太田小学校
校長名 小川 一法
担当者 若林 大靖

1 活動の趣旨

本校は、厚岸町の山間に位置する全校児童 21 名の小規模校であり、地域の産業は主に酪農業である。釧路太田農協に働く家庭も多く、酪農業の発展が大きな課題となっている。厚岸町全体も過疎化が進み、基幹産業の維持や新たな産業の開拓・発展が大きな課題となっている。

そのような中、地域との関わりや地域素材・地域人材を活用した教育を進めることは「変化の激しい時代に、自分達の生まれ育った地域を発展させる力」を育む教育を進める上で意義があり、教育活動全体を通じて、教師と児童がともに学び、成長していく学校を目指している。

2 活動計画

本校は、「自ら学び、協力して学ぶ子どもの育成」を学校理念として、E S Dを課題解決の活動と捉え、実践を通して主体的に参加し、協働的に取り組むことを目標とした。

具体的には、総合的な学習の時間をはじめ、社会科や理科、生活科等の授業を通して、環境・地域との連携・食育を柱に活動を推進している。

3 活動事例

①地域と関わり合いながら自己解決能力を育てる学習活動

総合的な学習の時間等を活用し、地域と関わり合いながら自己解決能力を育てる活動を行った。例えば、中学年において、学校林を活用し、身近な森林と水の関係調べ、森林の役割について考えるとともに、行政機関と連携し、間伐や植樹の実際について学習した。

また、高学年では、牡蠣やあさりなどの厚岸町の特産物について学習し、特産物と自然環境とのかかわりを通して、厚岸湖や別寒辺牛湿原などの環境保全の大切さについて理解を深めるとともに、自分たちが地域の一員として、何ができるかを考え、実際に行動に移す学習を推進している。

さらに、低学年では生活科等の学習において、地域に出かけ、地域で働く人やお年寄りなどと繰り返し関わることで、身近な地域や人々への愛着をもつことができた。

こうした活動を6年間を通じて行うことで、地域を知り、地域と関わり、地域への誇りや愛着をもつことの大切さを学んでいる。

②委員会活動で取り組む環境づくり

本校は委員会活動において、節電や節水、ゴミの分別など環境整備に関する活動を推進している。例えば、「環境にやさしいせっけん作り」や「保護者の協力を得た雑巾作り」など、清潔で綺麗な環境で学ぶ事を目指し、自分達でできることはないかを話し合

いながら取り組んでいる。

③学校園を活用した作物の栽培活動

地域の特色を生かし、保護者や地域の方と連携し、学校園における栽培活動を継続して行っている。各学年ごとに栽培の計画を立て、自分たちで栽培を続け、最後に保護者や地域の方々を交え、収穫している。学校園やビニールハウスの耕作及び整備には、保護者はもとより、地域の方々のご協力もいただいている。

一連の活動を通して、作物を作ることの大変さと喜びを感じるとともに、食の大切さについて学ぶことができた。



④縦割り班を活用した美化活動

本校では異学年児童の交流を目的とした縦割り班活動を実施している。今年度は3つの班に分かれて活動し、地域の清掃活動や学校の花壇づくり等を行っている。

花壇づくりでは、地域の方々のご協力の下、マリーゴールドやサルビア、金魚草などの花の苗をいただき、縦割り班ごとに花壇のレイアウトを考えて植え、協力して世話をしている。

また、クリーン作戦では、縦割り班ごとに地域を分担しごみ拾いを行った。地域のごみを拾いながら、普段あまり見ることのできない地域の様子を見学し、異年齢の集団でコミュニケーションを取りながら協力して活動するなど、貴重な体験となっている。



4 成果と課題

本校の教育活動には、地域と密接に関わる活動が多く取り入れられていることから、今後も、活動の一層の充実に向けて、教育課程を常に改善していく視点を持つことが必要である。

また、小中9年間を見通した活動となるよう、校区の中学校と連携して指導計画の充実を図るとともに、地域の保育所とのかかわりについても意識していく。